

第 2 回検討部会における意見等への対応について（緩和）

| No. | 質疑内容 | 対応 | 資料 |
|-----|---|--|----|
| 1 | <p>【目標設定について】 <u>東京都の目標をベースに目標値を計算しているということだが、人口増加や世帯数増加など、東京都と千代田区の活動量の傾向に違いはあるのか。</u></p> | <p>活動量の違いはあると思われるが、明確に調査・評価しているわけではない。あくまでも東京都の一員として、国よりも高い東京都の目標を達成していかなければならないという視点で設定した。</p> | — |
| 2 | <p>【削減目標の水準について】 <u>目標設定にあたり、1.5℃目標は非常に重要な尺度だと考える。東京都や他自治体がそこまでの目標を掲げていない中で千代田区が先陣を切って目標を変えていく意義は大いにあるのではないか。</u> <u>目標は必ずしも一つに決める必要はなく、例えばもう少し高い目標のような形で1.5℃目標のレベルを掲げる方法もある。少なくとも1.5℃を目指す場合にどのくらい削減する必要があるのかは提示していく必要はあると考える。</u></p> | <p>都と区の活動量の将来予測の比較（人口、世帯数、業務床面積）や目標の活動量当たりの削減（基準年比割合）をそれぞれ算出し、比較する。 それを踏まえ、区としての意欲的な目標設定（区の特徴を踏まえた高い目標値）と東京都の一員としての目標を次回お示しさせていただく。</p> | — |
| 3 | <p>【都と区の違いによる目標設定】 <u>東京都の目標値から千代田区の目標値を設定する手法について、東京都と千代田区では新しく着工する床面積や住宅における戸建てと集合住宅の比率、業務ビルにおける中小ビルと大規模ビルの割合などが異なると考えられる。東京都の業務部門や住宅における1㎡あたりのCO2削減率を算出し、区とどのような関係になっているのかを示してもらおうと良い。住宅は集合住宅が多く、業務ビルは東京都全体の平均に対して大規模な建築物が多いと思われる。その特性を生かすと、さらに東京都の平均的なものよりも大きな目標設定が可能になるのではないか。</u></p> | | |

| No. | 質疑内容 | 対応 | 資料 |
|-----|--|--|------|
| 4 | <p>【目標設定における議論のプロセス】 不確実性が高い時代の中では計画や目標値を定めることがこれまで以上に難しくなっていると感じた。<u>区民に向けて情報を出していく際には、議論の過程などプロセスを示しながら計画を述べていく方法もこれからは大事ではないか。社会が求めることや区が挑戦すべきところと現実的にできることは必ずしも重ならないところもある。どう折り合いをつけていくか、趣旨を説明して付記する方法もあると感じた。</u> <u>検討部会の上に事業者や区民が入っている懇談会があり、まずはそこで理解してもらえらるような目標設定になっていないとならないだろう。その先実際に公表する際に区民、事業者に理解してもらえなければならない。その辺も併せて考えていければと思う。</u></p> | <p>いろいろな方の意見を踏まえていくことが大事だと思っている。いただいた意見などは示していく必要があり、情報を出していくことは大事だと思っている。</p> | — |
| 5 | <p>【新型コロナウイルスによる影響】 <u>新型コロナウイルスによる生活様式の変化によりオフィスの需要が減ることを考えれば、それを織り込んでもっと減らせると考えるのが妥当ではないか。単位面積当たりで働く人の数は減る可能性がある。基礎的な数値をもう一度見直す必要があるのではないか。</u> NTTドコモのモバイル空間統計が公開されているが、日中、東京駅の周辺、大手町は一年前に比べると人の数が4割ほど減っている。一方で新宿や渋谷では1割から2割くらいしか減っていない状況である。地域的な特徴があるため、千代田区がどのような状況なのかをしっかりと押さえる必要がある。 <u>オフィスのエネルギー消費について、コロナ対策として、空調をしながら換気をどのようにやっていくのかは定まっていなのが現状かと思われる。今後研究・検討が進んでくるとある一定のところに落ち着いてくるとと思われる。今の過渡期の状況では、決して減っていないというのが現状である。</u></p> | <p>コロナウイルスの影響については、過渡期であるため対策や方向性が定まっておらず、直接的に目標水準や施策に反映することは現段階では難しい。計画期間中もデータを取得し、影響について継続的に分析を行っていく。</p> | 参考資料 |
| 6 | <p>【原単位目標と施策の関連性】 千代田区は世帯や延床面積が増えていく中で原単位がかなり厳しい目標になっている。達成には目玉のような事業がないと難しいと思われるが、それが見えてこない印象がある。<u>目標を達成することができる事業になっているのか、事業をやったときの目標としてどれくらいが適当なのか。目標、事業、体系も含めて検討する必要がある。</u></p> | <p>目標と施策が少し乖離していることは認識している。重点施策としては、これまでも取り組んできた建築物の省エネ対策とこれから力を入れていきたい再生可能エネルギーの導入拡大、面的な温暖化対策などを想定している。区の施策による削減見込み量が分かるよう、国や都の施策による区域での削減見込み量と区分して次回にお示しさせていただく。</p> | — |

| No. | 質疑内容 | 対応 | 資料 |
|-----|---|---|------------------------|
| 7 | 【目標値と施策の関連性】 目標値を達成するためにどのような施策が必要かという視点を引き続き持って、検討を進めてもらいたい。 | | |
| 8 | 【目標の細分化について】 目標を全体で何%というだけではなく、分解する、例えば建物の省エネでやる部分がこのくらいといったものが二段階目の目標としてあると、アウトプット指標のような形とつながってくると思う。全体で一つというのは皆さんが気をそろえていくのにも必要であるが、その下に分解した目標で、区がやれること、協働してやること、人にやってもらうことなどを含めて分けられるような目標だと良い。 | 目標の細分化は事業の検証にも役立つ可能性があるため検討したい。千代田区では最近建った集合住宅が多い中、家庭部門で5割、6割を減らすことは現実的ではなく、そういった意味で割合の大きい業務部門を重点的にやっていく必要があると考えている。細分化した目標についてもどの部門に設定するか検討する。 | — |
| 9 | 【再生可能エネルギーの調達】 再生可能エネルギーについて、「2-1 再生可能エネルギーの普及促進」の事業は「導入促進」となっている。ある程度は実際につくっていく、太陽光パネルを置いていく、未利用エネルギーを活用していくことは重要だと思うが、どうやって外から買ってくるかというのも千代田区ならではの特徴としてあって良いと思う。 | 「2-1-2 再生可能エネルギーの導入促進」は他地域からの調達がメインであることが分かるように施策名を修正する。 | 資料2 P. 37、 P. 43 |
| 10 | 【各施策の表現】 施策の表現について、「推進」と「促進」を使い分けているが、一般的に「推進」は自らが主体になって進める、「促進」は他にやってもらうというのが基本的な使い分けだと思う。一方でエネルギーレジリエンスについては「強化」という言葉も使われているため、最終的にその辺の日本語の表記の統一、考え方の整理もあわせて見直してほしい。 | 各施策の表現について、紐づけされる事業内容や取り組み主体を踏まえた上で考え方を整理し、整合性のとれた表現になるよう修正する。 | — |
| 11 | 【改定計画における課題】 改定の目次の中で「千代田区の課題」とあるが、「課題とポテンシャル」という整理の仕方でまとめてもらいたい。例えば大規模な建物が多い、人口が増えていることは課題かもしれないが、一方でそれを逆手にとったいろいろな対策ができるかもしれないことを考えるとポテンシャルとも考えられる。「課題とポテンシャル」という整理でまとめれば、多分その結果が施策の方に反映されてくるかと思うので、検討してもらいたい。 | ご意見の通り修正する。 | 資料2 P. 9-P. 13 |